

令和3年11月10日
記者発表

令和3年度和歌山県文化表彰について

令和3年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏 名	年齢	住 所	出身地	分 野
く ぼ た ひろ とし 久 保 田 弘 敏	80	東京都	有田川町	航空宇宙工学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏 名	年齢	住 所	出身地	分 野
た だ か よ こ 多 田 佳 子	82	和歌山市	和歌山市	声楽家
はん だ よし なが 半 田 美 永	74	三重県	紀の川市	国文学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏 名	年齢	住 所	出身地	分 野
い とう あや 伊 藤 彩	34	有田市	有田市	現代美術家
まつ い しゅん すけ 松 井 俊 介	43	和歌山市	和歌山市	能楽師
よし もと ひで き 吉 本 英 樹	36	神奈川県	和歌山市	デザインエンジニア

（年齢は令和3年11月16日現在）

2 表彰式

- (1) 日 時 令和3年11月16日（火）14時～
(2) 場 所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、^き徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿 革

昭和39年度より実施、本年度で58回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

令和4年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。
（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担 当 課	文化学術課
担 当 者	胡麻・安井
電 話	073-441-2050（内線2058）

令和3年度和歌山県文化賞

久保田 弘敏

住 所 東京都大田区
出 身 地 和歌山県有田川町
生 年 昭和16年

◎ 業績及び経歴

昭和16年有田郡藤並村（現有田川町）に生まれる。県立吉備高等学校（現有田中央高等学校）に入学後、栃木県に転居し、その後東京大学工学部航空学科に入学。昭和45年同大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し、工学博士となる。

大学院修了後、科学技術庁航空宇宙技術研究所に入所し、宇宙飛行体の空気力学及び熱空気力学を研究。昭和49年アメリカ航空宇宙局(NASA)から客員研究員として招聘を受ける。帰国後は、東京大学工学部航空学科において、航空宇宙工学分野の研究と学生の育成指導に尽力。代表的な研究成果として、極超音速機の空力加熱に対するトランスピレーション冷却法と頭部スパイク装着による熱防御、超音速機のソニックブーム低減のための機体形状設計及び排気中の窒素酸化物とオゾンの反応シミュレート、将来型宇宙輸送システムの成立性評価、等がある。

また、日本航空宇宙学会会長、日本流体力学会会長、日本ロケット協会理事、国の審議会等の委員、国際会議委員、国際的学会誌の編集委員等を歴任。日本学術会議での航空宇宙科学技術の方向性を示す提言、総合科学技術会議での第5期科学技術中期計画の策定、特殊法人宇宙開発事業団の外部評価と組織改革を礎とした宇宙航空研究開発機構(JAXA)の発足への寄与等、氏の我が国科学技術の発展及び産業振興にもたらす功績は実に膨大で枚挙に暇がない。

さらに、帝京大学理工学部では宇宙システム研究会を創設し、微小重力環境と宇宙放射線が細菌に与える影響を観察する小型人工衛星の研究開発を学生に指導し、打上げを実現。小中高校生向けサイエンスキャンプの開催や本県を含む各地域での講演会など、一過性で終わらせない氏の人材育成活動は、将来の宇宙分野を担う若者達を着実に育てている。

航空宇宙工学の世界的研究者としての氏の卓越した功績は、誠に多大であり計り知れない。

■ 現 在

- ・東京大学名誉教授
- ・帝京大学理工学部研究支援者
- ・東京電機大学客員教授
- ・一般社団法人日本航空宇宙学会名誉会員
- ・一般社団法人日本流体力学会名誉会員
- ・アメリカ航空宇宙学会(AIAA) Associate Fellow
- ・一般社団法人可視化情報学会シニア会員
- ・日本ロケット協会名誉会員
- ・公益財団法人宇宙科学振興会理事

◆ 主な表彰歴等

- 昭和34年 第3回日本学生科学賞栃木県高校の部入賞
平成7年 可視化情報学会論文賞
平成27年 とちぎ産業活力大賞特別功労賞

令和3年度和歌山県文化功労賞

多田 佳^た^だ 佳^か^よ 子^こ

住 所 和歌山県和歌山市

出 身 地 和歌山県和歌山市

生 年 昭和14年

◎ 業績及び経歴

昭和14年和歌山市に生まれる。武蔵野音楽大学短期大学部声楽科を卒業。昭和38年から27年間、和歌山県立高等学校等の音楽教員として指導を行う。

大学卒業後の昭和37年から音楽活動を本格的に開始。リサイタルやジョイントリサイタルを多数開催し、和歌山市交響楽団の定期公演等に出演。昭和39年に和歌山市民オペラ協会（和歌山ふるさとオペラ実行委員会から改称）の前身である和歌山声楽研究会を設立。以来、代表として数々の定期公演に出演、国内外の著名なアーティストを招聘するなど、本格的なオペラ文化を和歌山に根付かせるための活動を50年以上の長きにわたり情熱をもって行ってきた。

和歌山市民オペラ協会の公演実績は令和3年現在で60回に及ぶ。平成8年及び10年には県外で開催された国民文化祭に参加し活動の場を広げたほか、令和3年開催の紀の国わかやま文化祭2021では、氏プロデュースによる新作オペラ「稲むらの火の物語ー 嵯峨と海舟」を上演。氏の演出による上演作品は『清姫』一渡し場の段ー、「魔笛」、子供向けオペラとしての「シンデレラ」など多岐にわたり、企画・演出・自身の出演のほか、若手の指導にも尽力し、多くの声楽家が育つ場を築き上げている。

また、和歌山県・一般財団法人和歌山県文化振興財団が主催する和歌山県新人演奏会の声楽部門の審査に20年以上携わり、和歌山市・和歌山市教育委員会・ニュース和歌山主催の和歌山音楽コンクールの声楽部門審査員を昭和63年より22年間務め上げた。

子供達を対象としたオペラの舞台体験のワークショップや、唱歌を歌いながら学ぶ「唱歌の学校」の開催、音楽療法研究会理事長としてのボランティア活動など、氏の音楽を通じた貢献の対象は幅広い世代にわたる。

人々に音楽の素晴らしさを伝え、本県に上質のオペラを根付かせる氏の功績は、誠に多大である。

■ 現 在

- ・ 声楽家
- ・ 和歌山市民オペラ協会会長
- ・ 和歌山文化協会洋楽部部長
- ・ 公益社団法人日本演奏連盟会員
- ・ 全日本オペラネットワーク運営委員

◆ 主な表彰歴等

- 平成23年 和歌山県社会福祉功労賞
- 平成29年 和歌山県知事表彰
- 令和元年 和歌山市文化功労賞

令和3年度和歌山県文化功労賞

はん だ よしなが
半田 美永

住 所 三重県伊勢市
出 身 地 和歌山県紀の川市
生 年 昭和22年

◎ 業績及び経歴

昭和22年紀の川市に生まれる。昭和46年皇學館大学文学部国文学科を卒業後、同大学院文学研究科修士課程国文学専攻を修了。昭和53年同大学院文学研究科国文学専攻博士課程を単位取得満期退学。その後、智辯学園和歌山中学高等学校で教鞭を執り、昭和59年に皇學館大学文学部専任講師に着任。助教授、教授を歴任し、平成30年より名誉教授となる。平成15年『佐藤春夫研究』により文学博士号を取得。

日本近現代文学を専攻する国文学者として、地方固有の風土を文化論的な視点から考察し、古代から現代までの文学を時系列的に読み直すことにより、日本の伝統文化が異文化を取り込み変容しつつ成長する様を考証する精神史的研究をテーマとする。

30代の頃『和歌山県史』（通史編近現代一・二及び人物編）の編纂、執筆に関与したことを契機に、紀伊半島をめぐる作家や作品に着目した調査研究に長年にわたり取り組む。その成果は、著書『紀伊半島をめぐる文人たち－近代和歌山の文学風土』、『劇作家阪中正夫 伝記と資料』、『文人たちの紀伊半島－近代文学の余波と創造』、『有吉佐和子論－小説「紀ノ川」の謎』等を通じて世に示され、氏は文学分野における熊野学の先駆けとして県の文化振興に大きく寄与してきた。特に、戦後その業績が埋没していた阪中正夫が再評価されたのは、氏の研究功績の賜物といえる。さらに『近代作家の基層－文学の〈生成〉と〈再生〉序説』は、熊野・紀伊を視点においた文学論として高く評価された。

また、熊野のもつ豊かな自然・歴史・文化を研究し発信する国際熊野学会の副代表として後進指導を行うほか、10年以上にわたり日中の学術交流にも貢献してきた。

氏の長年にわたる紀伊半島を対象とした近代文学分野の研究成果は、本県の地域文化の向上発展に大きく寄与するものであり、功績は誠に多大である。

■ 現在

- ・皇學館大学名誉教授
- ・中国河南大学客座教授
- ・河南師範大学客座教授

◆ 主な表彰歴等

昭和46年 皇學館大学総長賞

令和3年度和歌山県文化奨励賞

いとう あや
伊藤 彩

住 所 和歌山県有田市

出 身 地 和歌山県有田市

生 年 昭和62年

◎ 業績及び経歴

昭和62年有田市に生まれる。平成21年京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻を卒業、平成23年同大学院美術研究科絵画専攻油画を修了。在学中から精力的に作品を発表し、大学卒業時の作品がアートアワードトーキョー丸の内2009で準グランプリを受賞、大学院修了時の作品がアートアワードトーキョー丸の内2011で長谷川祐子賞及びシュウウエムラ賞を受賞するなど、常に高い評価を得てきた。

平成27年和歌山県立近代美術館主催の「リアルのリアルのリアル」展では、空間そのものを取り込むような縦5メートル横21メートルに及ぶ圧巻の作品を制作。平成29年にはアイルランドで作品展を開催するなど、国内外から一層の注目を集める。

氏の制作活動は、「フォト・ドローイング」という独自の画面構成方法から成り立つ。過去に描いた絵画や紙のドローイング、写真、陶器などの立体物、布、家具などを組み合わせ、ライティングも施した一種のジオラマを設置。このジオラマを多方向から、時には氏自身が中に入り込みながら、数千枚にも及ぶ写真を撮影し、その写真を眺め組合せることで、構図やアングルの視覚的効果を検討し、画面を再構築して絵画として表現する、というものである。

この手法を用いることで、奥行き感の喪失、ねじれ、物質感のそぎ落としなどが起こると同時に、濃密なリアリティが作品の中に息づく。そこに、氏の類まれなる色彩感覚と、描くよろこびのエネルギーが充填された時、氏が追及する「無意味」をまさに具現化しつつも、見る者にユーモアやどこか楽しさすら感じさせる「意味はないが魅力的」なもので溢れた氏の作品が完成する。

独自に発見した制作手法により、描くこと生きることのよろこびを表現するのびやかな作風をもつ氏は、現代美術作家として、今後より一層の活躍が期待される。

■現 在

・現代美術家

◆主な表彰歴等

平成19年 Art Camp2007サントリーミュージアム〔天保山〕サントリー賞
平成21年 アートアワードトーキョー丸の内2009 準グランプリ
平成23年 2010年度京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞
アートアワードトーキョー丸の内 2011 審査員賞（長谷川祐子賞）、シュウウエムラ賞

令和3年度和歌山県文化奨励賞

まつ い しゅんすけ
松井 俊介

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和53年

◎ 業績及び経歴

昭和53年和歌山市に生まれる。3歳にして初舞台を踏む。喜多流能楽師で重要無形文化財保持者の父、彬氏の影響で、6歳から能の「仕舞」を習う。子方として大きな舞台に出演し、宗家との共演も果たすなど、幼少期から能の世界に慣れ親しむ。学業と能の両立に葛藤も生まれる中、高校卒業の直前に「弱法師」の舞台を見たことで能楽師となることを決意。平成8年大阪能楽協会養成会に入会する。後に、喜多流職分長田驍師に師事。能楽協会名古屋支部へ入会し、プロ活動を開始。平成27年名古屋能楽堂にて猩々乱を抜く。

喜多流は、豊臣秀吉の前で7歳にして「羽衣」を舞い名を上げ「七つ太夫」と呼ばれた芸の天才、喜多七太夫長能を流祖とする。卓越した芸術的感覚により一流を創り出した七太夫は、大阪夏の陣への参戦後身を潜めたが、徳川家康と秀忠に能役者としての才を望まれ一流の創設を認められた。その芸風は、武士気質で素朴かつ豪放であり、多くの大名家から支持され、現在も特に地方で根強い人気を誇る。

氏は、喜多流の能楽師として父の彬氏とともに、日本のみならず、海外でも活躍を重ねる。平成19年にウズベキスタン国際音楽祭に参加。その後もアルゼンチン公演、バルト三国公演、スコットランド音楽祭、フィンランド公演に参加。平成25年にはポーランド日本国大使館において能を示教するなど、日本の伝統芸能である能の魅力や奥深い芸術性を国際的に発信している。また、国内では、NHK大河ドラマへの能楽師役としての出演や、りら創造芸術高等学校での後進指導など、舞台活動に留まらない多様な活躍を続けている。

関西で唯一の喜多流能楽師の若手、また、本県で唯一シテ方を務める若手能楽師として、国内外にわたり活躍する氏には、本県の能文化の担い手として将来一層の活躍が期待されている。

■現 在

・能楽師

◆主な表彰歴等

・令和2年 大桑文化奨励賞

令和3年度和歌山県文化奨励賞

よしもと ひで き
吉本 英樹

住 所 神奈川県川崎市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和60年

◎ 業績及び経歴

昭和60年和歌山市に生まれる。平成20年東京大学工学部航空宇宙工学科卒業。平成22年同大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了。平成28年Royal College of Art（英国王立芸術学院）Innovation Design Engineering学科博士課程修了。

東京大学在学時から、工学の応用領域には、エンターテイメントのような社会サービスとしての伝播も含まれるとの視座を持ち、テクノロジー×デザインをさらに追求すべく、Royal College of Artに進学。在学中に制作した、ものと人とのインタラクションを伝える作品「Yuen」がRed Dot Design Awardのデザインコンセプト部門で最優秀賞を受賞。さらに、人の動きにあわせて、風になびく稲穂のように穂を揺らす照明作品「INAHO」が第一回Lexus Design Awardを受賞するなど、工学とデザインの両面を追求して制作した作品が、国際的に高い評価を得る。

また、平成27年にロンドンで氏が創業したTangent Design and Invention Ltdには、世界有数のラグジュアリーブランドからの依頼が相次ぐ。ドバイデザインウィーク期間中にBurj Khalifaのファサードに映し出す映像の制作、ジュネーブで開催された高級時計の国際見本市「SIHH」に出展するエルメスの展示空間のデザインなどはその一例であり、氏の創造する作品への信頼の厚さを証明している。

令和2年には東京大学先端科学技術センターにおいて特任准教授に就任し、先端アートデザインラボを共同設立。最先端技術とデザインの融合を追求する氏の活躍の広がりには計り知れない。

技術をクリエイティブに応用するという強みを持ちながら、人々の生活にテクノロジーの刺激を突き刺すのではなく、氏の率いるTangent（＝接線）の社名のとおり、寄り添わせる、という感覚を大切にしている氏のあり方は、世界から高く評価されており、今後更なる活躍が大いに期待される。

■ 現在

- ・Tangent Design and Invention Ltd 創業者、クリエイティブディレクター
- ・東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授
- ・大阪芸術大学アートサイエンス学科 客員准教授

◆ 主な表彰歴等

- 平成22年 日本人工知能学会全国大会優秀賞
- 平成22年 独立行政法人情報処理推進機構「未踏IT人材発掘・育成事業」スーパークリエイータ認定
- 平成24年 Red Dot Design Concept, Best of the Best Award
- 平成24年 Output Award, Winner
- 平成25年 Lexus Design Award, Winner
- 平成28年 Milano Design Award 2016, Best Engagement by IED

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 久保田 弘敏 様》

令和3年度和歌山県文化賞を賜り、誠に光栄に存じます。私は有田郡藤並村（現和田川町）に生まれ、その後関東、東京で過ごしましたが、故郷和歌山の風土及び多くの方々に育んでいただいたことは、いつも心の拠り所でした。私の専門の航空宇宙工学は、空を飛ぶという人間の夢を実現し、航空輸送によって社会を便利にするとともに、探査・開発によって宇宙を解明し、その特性を利用して社会を豊かにしますが、その中で、私は音より早い飛行機、宇宙輸送システム、小型人工衛星などの研究を行ってきました。今後も研究や次世代人材育成を通じて、故郷和歌山に貢献できれば大変うれしく思います。

《文化功労賞 多田 佳世子 様》

この度は、和歌山県文化功労賞を賜り、厚く御礼申し上げます。喜びと驚きの気持ちでいっぱいです。和歌山県に質の高いオペラを根付かせたい、との一心で約50年励んで参りました。このように活動が続けてこられましたのは、県民の皆様の支えによるものと、心から感謝いたしております。これからも、故郷和歌山から、全国に誇るオペラを発信できるよう尽くして参りたいと思います。

《文化功労賞 半田 美永 様》

此度は、和歌山県文化功労賞を賜り、誠に光栄に存じます。和歌山県に生れ、育ち、その風土と歴史から、限らない恩恵を受けて参りました。国文学を専攻し、近代文学を研究の対象としながら、私の関心は、おのずから明治近代の和歌山に向かいました。和歌山の精神的風土を基盤とした文学作品に学びつつ、これからも精進を続けたいと思います。故郷（ふるさと）の一層の発展を祈念しながら、御礼の言葉と致します。

《文化奨励賞 伊藤 彩 様》

この度は、和歌山県文化奨励賞を賜り、大変嬉しく思っております。今まで支えてくれた両親、家族、そして応援して下さっている方々のおかげです。心より感謝申し上げます。私は有田市のみかん農園の末っ子として生まれ育ちました。幼い頃から夢中だった絵やモノ作りを現在も有田を拠点に続けています。夫がアイルランド人なので海外と行ったり来たりですが、豊かな自然、新鮮な食材、子育て支援が充実しており、帰ってくるたび制作に専念できる本当に素晴らしい環境だと身に染みて感じております。微力ではありますが、愛する和歌山の文化向上の発展に貢献出来るよう、一層、精進して参ります。

《文化奨励賞 松井 俊介 様》

この度は文化奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。受賞させていただきましたことは、後援していただいた皆様のおかげです。厚く御礼申し上げます。和歌山という深い精神文化が受け継がれている土地で生まれ、能楽を生業とする事で、少しでも発展と継承に携われるように活動をさせていただきたいと思います。

《文化奨励賞 吉本 英樹 様》

生まれ育ったふるさと和歌山県から、このように名誉ある賞を賜りましたことを、誇りに思います。日本と英国を拠点に、アート／デザインとテクノロジーを繋ぐ活動が続けてまいりましたが、頂いた文化奨励賞に恥じぬよう、一層の高みにチャレンジしていくと、決意を新たに致しました。自然も人も、神も仏もが共存する、豊かな和歌山は、私の研究・創作活動におけるアイデアの源泉です。微力ながら和歌山に恩返しできるよう、これからも精進致します。

令和3年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



久保田 弘敏 氏

【文化功労賞】



多田 佳屯子 氏



半田 美永 氏

【文化奨励賞】



伊藤 彩 氏



松井 俊介 氏



吉本 英樹 氏

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 胡麻

Email goma_t0002@pref.wakayama.lg.jp